

練習船長崎丸におけるネットワークの現状と利用について

水産学部附属練習船長崎丸 一等航海士

西田 英明

nishidah@net.nagasaki-u.ac.jp

この頃、大学はもちろん家庭でもインターネットはブロードバンドでの通信が盛んになりました。2年ほど前より水産学部においても教授会通知、議事録の配布、教官へのお知らせ等の学部からの連絡はインターネットにより行われるようになりました。しかし、練習船におけるネットへの接続環境は良くないのが現状で、船舶の教官への連絡は書面や電話により行われるのが普通でした。

インターネットによる連絡がほとんど行なわれなかった理由としては、

1. 年間5ヶ月は航海のため定係港を離れるので、ケーブルを常設出来ない。
2. 大学のネットに入るためには、船舶電話を経由してダイヤルアップで接続する必要があるが、通信速度はアナログで9800ボーと非常に遅い。
3. 64kの船舶電話使用のシステムもあるが、購入価格とランニングコストが高い。
4. 航海中、停泊中とも、電話とFAXを使用すれば、さほど必要性を感じない。

などのことが考えられました。

世の中の情報通信が、光ファイバーとかADSLでのインターネットに重点が移りつつあることもあり、船内でも手軽にインターネットにより情報を得られれば何かと便利であろうと考え、導入を図った。幸いに、練習船の停泊場所の隣に水産学部海洋資源教育センターが設置されたので、センター内のサーバーより1回線を使用させて頂いた。無線で船上に設置したルーターへ飛ばし、船内も無線と有線を併用して研究室や士官室からのネットへの常時接続を可能とした。少しは大学の研究室での便利さに近づいたと思われます。

しかし、航海中であれば以前と同じく船舶電話使用を使用する方法しかなく、しばらくメール確認をしなければ50通以上も溜まり、受信に30分以上も必要となります。メールに添付されるデータファイル、PDFファイルも多くなり、航海中に船舶電話を長時間独占しないよう配慮し、長崎入港後メール確認するのが普通です。大学よりの連絡が届いていないことについては、航海中でメールを確認しませんでしたという言い訳で御勘弁願っている現状です。

やっと構築した簡易型のネットワークをどの様に利用しているかと聞かれれば、練習船として特別な利用方法でなく、ごく普通で、次の様に利用しています。

1. 大学よりの連絡電子メールを取り、送る。
2. Webより種々の検索を行い、情報を得る。
3. 近い将来の計画としてホームページを作製し、練習船の航海状況を載せる。

実習航海中、日々の簡単な実習状況を載せ、保護者の方が”自分の子供が乗った船はどの辺を航海しているのか”、”どの様な実習をしているのか”を知ることが出来れば親の心配の種も少しは減るかと思われる。

4. 船内におけるパソコン同士のデータ交換をネットで行う。
5. プリンターの共有を行い、狭い船内における無駄な空間の使用を少なくする。

近頃、目立って便利だなと実感したのが、物品購入の仕様書を作成する時でした。各メーカーの機器仕様や性能表を入手する場合、検索することにより即時に得られ、急ぎの場合でも昼夜に関係なく仕様書作成や検討が可能な事であった。ネットとは上手に使いえばこんなに便利なものかとおつくづく感じました。